

群 教 セ	F03 - 01
	平22.242集

群馬県の特徴を考える力を育てるデジタル 支援教材「ズームイン・ぐんま」の作成

— 県内の特色ある地域の人々の生活に視点を当てて —

長期研修員 桐生 茂雄

《研究の概要》

本研究では、群馬県の特徴を考える力を育てるためのデジタル支援教材「ズームイン・ぐんま」を作成した。「地場産業」「自然」「伝統・文化」から、県内十の地域を取り上げ、「インタビュー」「動画・静止画」「表・グラフ」「地図」「年表」などの資料によって、県内の特色ある地域の人々の生活を手掛かりに群馬県の特徴を考える支援ができるようにした。これを小学校第4学年社会科の学習で活用し、その有効性を明らかにした。

キーワード 【社会-小 デジタル支援教材 群馬県 特色 資料】

I 主題設定の理由

平成23年度から完全実施される学習指導要領では、小学校3・4年生社会科「県の様子」における「県内の特色ある地域の人々の生活」から県の特徴を考える学習の内容に変更があった。現行学習指導要領では「伝統的な工業などの地場産業の盛んな地域と地形」とあったところが、新学習指導要領では「地場産業の盛んな地域のほか、自然環境、伝統や文化などの地域の資源を保護・活用している地域」となった。「地形」から「自然環境、伝統・文化」へと変わったことにより、社会的事象とそこに暮らす人々とのつながりがより一層学習にかかわってくることになり、今まで以上に地域の様子、人々の思いや取組を考える学習が重要視されてくる。これまでも、実際に行ったことのない遠く離れた地域の学習では、児童ができる限りその地域の様子を理解できるようにと、動画や静止画を用いてきたが、今回の改訂でさらに地域の様子、地域の人々の思いや取組を伝える資料が必要になってきた。

児童の社会科における地域に関する学習の実態を見ると、小学校3・4年生の段階では、自分たちの暮らす市町村のことも、詳しく知らないことが多い。また、地域の様子と人々の思いなどを関連させて考えることなどにも、まだ不慣れな児童が多い。このような児童が市町村から県内の地域へと視野を広げ、「群馬県の特徴」を考えることができるようにするには、まずは「県内の特色ある地域」に視点を当ててその様子について考え、理解することが大切である。

社会科で地域の学習を行う場合は、実際に現地に見学に行き、実物を見て、現地の人から直接話を聞き、その中から学ぶことが最良である。しかし、各学校で学習する「県内の特色ある地域」は遠く離れている場合が多く、学校事情により行くことができないこともある。さらに、児童にとっては行ったこともない地域について考えることは難しいことである。そのため、現地に行けない場合、教室でも「県内の特色ある地域の人々の生活」から県の特徴を具体的に考えることができるような資料を示せることが必要となる。

そこで、「県の特徴」を考える学習に際しては、児童が行ったこともない特色ある地域の人々の生活を、できるだけ具体的に考えることができるように、地域の人々の思いや取組を伝えるデジタル支援教材を作成したいと考え、本主題を設定した。

II 研究のねらい

小学校第4学年社会科「県の様子」の学習において活用できる地域の様子、地域の人々の思いや取組を伝える資料を収録したデジタル支援教材「ズームインぐんま」を作成し、県内の特色ある地域の人々の生活を手掛かりに、群馬県の特徴を考える力を育てる指導に有効であることを明らかにする。

Ⅲ 研究の内容

1 基本的な考え方

本研究では、「県内の特色ある地域の人々の生活」を手掛かりに児童が県の特徴を考える力を育てるためのデジタル支援教材「ズームイン・ぐんま」の作成に取り組む。

(1) 県の特徴を考える力を育てるとは

県の特徴を考える力を育てるとは、児童が「県内の特色ある地域の人々の生活」に関する各種資料から身近な地域との相違点や共通点に気づき、自分なりに地域教材と人々とのかかわりや他地域とのつながりなどについて考え、調べたり考えたりしたことをまとめることができるようにすることであるととらえた。

本教材は、児童が行ったこともない「県内の特色ある地域の人々の生活」を考えるための手掛かりとなるように、「インタビュー」「動画・静止画」「表・グラフ」「地図」「年表」などの各種資料を収集し、県の特徴について気付いたり、考えたり、まとめたりすることができるように支援するものである（図1）。

(2) 「県内の特色ある地域」とは

新学習指導要領に新たに位置付けられた「伝統的な工業などの地場産業の盛んな地域を含めて、自然環境、伝統や文化などの地域の資源を保護・活用している地域」を、群馬県内で自然環境や伝統を受け継ぎ、そこに新たな努力や工夫を重ねて発展してきた地域ととらえ、「地場産業」「自然」「伝統・文化」から十の地域教材を県内の各地域から取り上げ、児童が暮らす身近な地域と比較しながら、群馬県全体の特色をとらえることができるようにした。

(3) 各種資料の収集について

各種資料の収集に当たっては、身近な地域との違いが分かるような特徴を表す動画や静止画を現地に出向き撮影したり、人々の思いや取組などの様子について、地域の方に直接話を聞いたりして集めた。また、地域の方が所有するデータを借りたり、パンフレットや書籍、インターネットなどの資料を参考にしたりした。

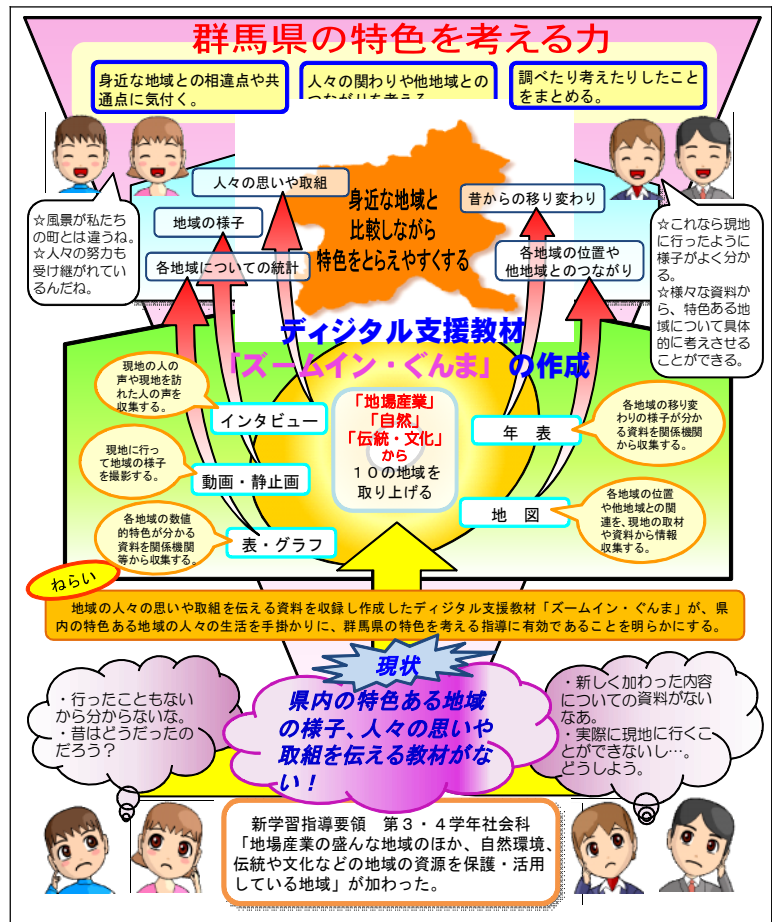


図1 研究構想図

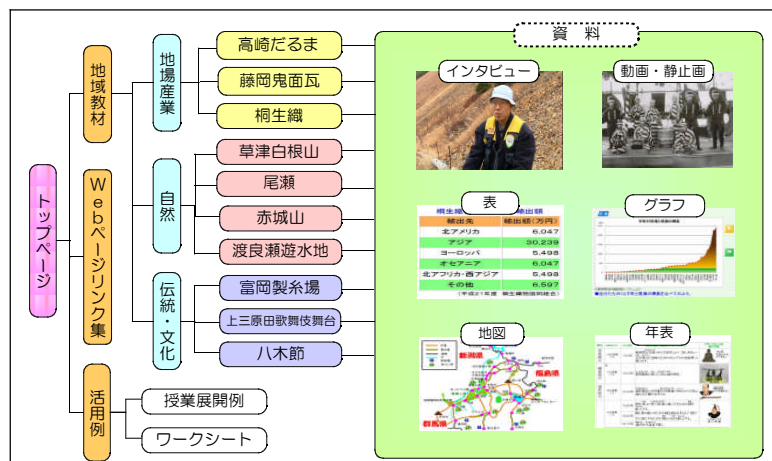


図2 「ズームイン・ぐんま」の構成

2 「ズームイン・ぐんま」の概要

(1) 「ズームイン・ぐんま」の構成

本教材は、各種資料から成る「地域教材」、各地域教材の関連Webページを見ることができる「Webページリンク集」、授業展開例やワークシートを参照できる「活用例」の三つから構成した。また、授業で教員が活用する際、必要な資料を迅速に選択し、提示することができるよう、HTML形式で作成し、DVDに収めた（前頁 図2）。

(2) 「ズームイン・ぐんま」の内容

① 地域教材

「地場産業」「自然」「伝統・文化」の三つの観点から作成し、「地場産業」では「高崎だるま」「藤岡鬼面瓦」「桐生織」を、「自然」では「草津白根山」「尾瀬」「赤城山」「渡良瀬遊水地」を、「伝統・文化」では「富岡製糸場」「上三原田歌舞伎舞台」「八木節」の十の地域教材を取り上げ、トップページからリンクを設定した(図3)。各地域教材の内容は表1のとおりである。



図3 「ズームイン・ぐんま」のトップページ

表1 地域教材の内容

分類	地域教材	教材の内容
地場産業	高崎だるま	昔から現在に至るまで、地域の特性を生かしてつくり続けられている様子を、製造業者へのインタビュー等の資料からとらえることができるようにする。
	藤岡鬼面瓦	昔から現在に至るまで、地域の特性と共に高い技術が受け継がれ、つくられている様子を、製造業者へのインタビュー等の資料からとらえることができるようにする。
	桐生織	昔から地域の特性を生かし、高い技術を受け継ぎ、世界にも目を向けて発展してきたという様子を、製造業者へのインタビュー等の資料からとらえることができるようにする。
自然	草津白根山	人々が地域の豊かな自然を再生し、守っていかうとする取組を、ボランティア団体へのインタビュー等の資料からとらえることができるようにする。
	尾瀬	多くの人々が豊かな自然を活用しながらも、保護活動に取り組んできた努力や工夫を、国や県の機関へのインタビュー等の資料からとらえることができるようにする。
	赤城山	地域の人々が豊かな自然を守っている努力や工夫、現在の問題点を、県の機関へのインタビュー等の資料からとらえることができるようにする。
	渡良瀬遊水地	地域の人々が遊水地の豊かな自然を守り利用するための努力や工夫を、国の機関へのインタビュー等の資料からとらえることができるようにする。
伝統・文化	富岡製糸場	富岡製糸場に関わった人々が、地域の自然や人々の力を生かし絹産業の発展に貢献してきた努力や工夫、そして現在、富岡製糸場を中心とした町づくりに力を注いでいる様子を、富岡市の機関へのインタビュー等の資料からとらえることができるようにする。
	上三原田歌舞伎舞台	地域の人々によって全国的にも珍しい建築物とそれを操作する技術が共に現在まで受け継がれてきた努力や工夫を、伝承委員会の方へのインタビュー等の資料からとらえることができるようにする。
	八木節	昔から地域の人々に親しまれ、受け継がれてきた努力や工夫を、八木節を講演している方へのインタビュー等の資料からとらえることができるようにする。

ア インタビュー

地域の方からは地域教材と人々のかかわりの様子やかかわるようになった理由などの話を、また、他地域の方からは他地域と地域教材とのかかわりが分かる話を集めて、地域の人々の思いや取組の様子、他地域とのかかわりを児童に気付かせたり、考えさせたりすることができるようにした。

そのため、地域の方や地域を訪れた方に直接会って取材をした。話の内容に応じて項目ごとに短い時間で聞けるように編集し、授業の様子に応じて、教員が選択して活用できるようにした(図4)。



図4 インタビューの項目(「尾瀬」の一部分)

イ 動画・静止画

製品、自然、芸能や建造物などの地域教材の様子や製造の工夫、自然環境の保護、伝統の継承、建造物の活用などの地域教材に対する人々の取組など、地域教材の特色に気付かせたり、考えさせたりすることができるようにした。

そのため、資料によっては、昔の静止画と今の静止画を並べて提示できるようにしたり、児童の学習の様子に合わせ、考えるための視点が分かりにくい場合は部分的に強調したり(図5)、反対に答えが見えている場合は部分的に隠したりして提示できるようにした。

ウ 表・グラフ

生産量、気候、人数などの数値や数値の変化を予想させたり、数値や数値の変化の理由を考えさせたりするなどして、地域教材の特色を考えさせることができるように作成した。

そのため、提示する資料は、数値を順番に表したり(図6)、資料を読み取らせるためのポイントを必要に応じて提示できるようにしたりした。

エ 地図

地域を詳細に表した地図からは対象物がどのような場所にあり、どのように分布しているのか、県内や全国など広範囲の地図からは他地域とのつながりはどのようになっているのか等、地域教材の特徴を考えさせることができるようにした。

そのため、地図と動画・静止画を関連付け、地図上の特定の地点をクリックすると、動画や静止画が提示できるように作成することで地図上のものが実際にはどのようなものになっているのか分かるようにした(図7)。また、地域教材と他地域とのかかわりに応じて、県や全国などの地図を用いて、他地域とのつながりを考えられるようにした。

オ 年表

歴史的分野に不慣れな3・4年生にも分かりやすく、事象の移り変わりから地域教材の特徴を考えさせることができるようにした。

そのため、地域の移り変わりを考えさせるために、注目させたい部分を見付けやすいように、文字色を変えて表示できるようにした。また、時代や社会的事象に関連するイラスト等を入れて、いつごろどんなことがあったの

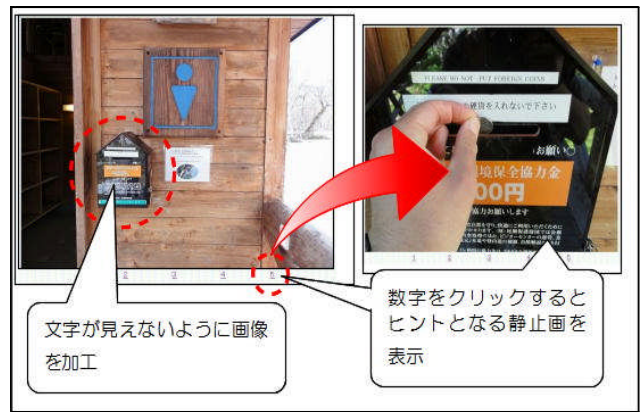


図5 動画・静止画の例(尾瀬のトイレ)

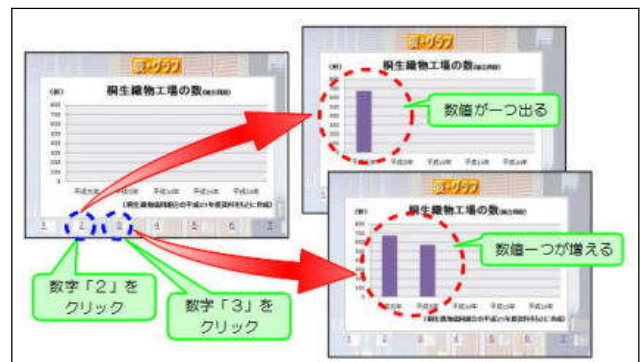


図6 グラフの例(桐生織物工場の数)



図7 静止画とリンクした地図の例(高崎だるま)

昭和時代	年表	イラスト
80年前ごろ	1932年 尾瀬への年間入山者数2500名程度(平野長英氏調査)。 1934年 日光国立公園の一部として国立公園になる。天然記念物の指定が内定されたが見送られる。 1944年 尾瀬の水で発電 1948年 尾瀬に原に高さ100mの発電計画が発表。 1949年 尾瀬のダム計画に、文部省は天然記念物指定を拒絶してストップをかける。 1951年 沼尻に尾瀬沼取水ダム権工事完成。このため水位の上下による植物の枯死始まる。早稲の沢湿原の白い秋葉を消す。 1952年 NHKラジオで「夏の思い出」を放送。 1955年 尾瀬入山者4万人台になる。 1956年 日本自然保護協会が、尾瀬・原の自然保護問題を「国連の世界自然保護連盟」に伝える。 1958年 国指定天然記念物になる(尾瀬・原)。清流があられてきて、植物のつぼむ。	1945年 太平洋戦争が終わる。 1958年 東京タワーができる。
70年前ごろ	1956年 尾瀬・原の尾瀬・原湿原に木道。 1966年 京電力が、尾瀬が原発電計画を発表。尾瀬が「尾瀬の水資源を利根川の水源として開発することについて」の意見を出す。	尾瀬の種生復元作業
60年前ごろ	1966年 群馬・新潟県では、尾瀬分水りに反対をする。群馬県は「アツ平を中心に、福島県は尾瀬・原を中心に、あれた流原の回復に取り組み始める。	
50年前ごろ		

図8 視覚的に分かりやすい年表(尾瀬)

か視覚的にも理解しやすいように作成した(前頁 図8)。さらには、歴史的事象に関連する事柄にはリンクを設定し、その場で「動画・静止画」等の資料を確認できるようにした。

② Webページリンク集

各地域教材を学習する上で、教員が事前に教材研究のために参照したり、補足資料として提示したりすることができるように、また、児童の実態によっては、児童に直接使用させ、インターネットを活用した調べ学習をさせることができるように、地域教材の関連Webページにリンクを設定したページを作成した。

③ 活用例

本教材の活用場面を例示できるよう、各地域教材の授業展開例とワークシートを作成した。

ア 授業展開例

授業展開例では、各地域教材の授業展開例を示した。また、授業のどんな場面でどんな資料を活用することができるのか分かりやすく表すために、各種資料に直接リンクを設定し、一度のクリックで資料を確認できるようにした(図9)。

イ ワークシート

児童が、考えたことをまとめる場面で活用できるようにワークシートを作成した。また、教員が、そのまま印刷をして活用できるPDF形式と編集可能なワープロ形式とを選択できるようにした。

全10時間	次	ねらい	活用場面	使用するデジタル支援教材	4観点との関連
1	学習課題をつかみ、尾瀬について興味	・尾瀬に対するイメージをもたせる。	○資料の種類 ・コンテンツへのリンク ○インタビュー ・尾瀬保護財団「尾瀬ってどんなところ？」 ○活用例 ・ワークシート「尾瀬ってどんなところ？」 ○地図 「尾瀬はどこにあるかなし」 ○活用例 ・ワークシート「尾瀬はどのあたりだろうか？」 ○表・グラフ ・「尾瀬の平均気温」他...	○関心・意欲・態度	

図9 各種資料にリンクを設定した授業展開例

IV 研究の計画と方法

1 実践の計画と方法




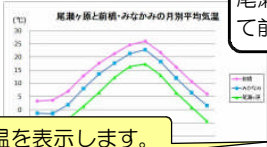

(1) 授業実践の概要

対 象	協力校 小学校第4学年 20名
単 元	わたしたちの群馬県「ゆたかな自然を守る～尾瀬～」
実践時期	平成22年10月19日～11月16日
授 業 者	長期研修員 桐生茂雄
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ○自然環境に特色のある尾瀬について、豊かな自然の様子や、尾瀬にかかわる人々が尾瀬の自然を守りながら特色ある環境づくりに取り組んでいる様子を理解し、尾瀬の特色と人々の取組との関係をとらえることができるようにする。 ○尾瀬にかかわる資料を集めたり、資料から読み取ったりしたことを整理するなどの具体的な作業や活動を通して、尾瀬の自然を守りながら環境づくりに取り組む人々の様子や、それにかかわる人々の思いを考えることができるようにする。

(2) 検証計画

検証の観点	検証の方法
○「ズームイン・ぐんま」の「インタビュー」「動画・静止画」「表・グラフ」の資料が、尾瀬の自然や人々の取組について、尾瀬と身近な地域との相違点や共通点に気付かせるための指導に有効であったか。	・授業の様子 ・ワークシートの内容分析 ・事前、事後の実態調査の比較
○「ズームイン・ぐんま」の「動画・静止画」「地図」「年表」の資料が、尾瀬と人々とのかかわり、他地域とのつながり、歴史的な移り変わりなどについて考えさせるための指導に有効であったか。	・授業の様子 ・ワークシートの内容分析 ・事前、事後の実態調査の比較
○「ズームイン・ぐんま」の各種資料が、尾瀬の自然や自然保護活動について、調べたり考えたりしたことをまとめさせるための指導に有効であったか。	・ワークシートの内容分析

2 授業実践(全10時間)

時	主な学習活動	デジタル支援教材「ズームイン・ぐんま」の活用場面
第1時	ねらい：学習課題をつかみ、尾瀬についての学習に興味をもつ。 ○尾瀬の概要について知る。 ・尾瀬の自然について知る。 ・尾瀬の位置について知る。	<p>インタビュー ○尾瀬とはどんなところなのかをイメージさせ、興味や疑問をもたせることで、これからの学習に意欲をもつことを支援。</p>  <p>尾瀬って、自然が豊かなところなんだあ。 「湿原」や「高山植物」って何だろう？調べてみようかな。</p> <p>地図 ○尾瀬の位置、所属する県名を確認することを支援。 群馬の隣県名を順番に質問しながら、提示します。</p> 
第2時	ねらい：尾瀬の自然と自分たちの暮らす地域との違いについて考える。 ○尾瀬の標高、気候について考える。	<p>動画・静止画 ○尾瀬の静止画や動画から、自分たちの暮らす地域との気候の違いに気付くことを支援。</p>  <p>私たちの地域では、5月はもう暑い日もあるのに、尾瀬は、まだ雪がたくさん残っているんだね。</p> <p>表・グラフ ○尾瀬の標高や気温、降水量について平地の前橋市や高地のみなかみ町と比較しながら気付くことを支援。 観測地ごとに気温を表示します。</p>  <p>尾瀬の気温は、1年を通して前橋よりも低いんだね。</p>
第3時	ねらい：尾瀬の自然について調べ、資料を収集する。 ○尾瀬の自然に関することが分かる資料を集める。	<p>Webページリンク集 ○Webページリンク集を用いて、インターネット上の資料を探しやすいように検索を支援。</p>
第4時	ねらい：尾瀬の自然について調べたことを、資料を用いて分かりやすくまとめる。 ○集めた資料をもとに、尾瀬の自然についてまとめる。	<p>ワークシート ○まとめ方の参考用ワークシートを提示し、仕上がりイメージをもつことを支援。</p>
第5時	ねらい：尾瀬の自然についてまとめたことを、分かりやすく発表する。 ○尾瀬の自然についてまとめたことを発表し合う。	
第6時	ねらい：尾瀬の昔と今の様子を知り、今日までの自然保護への取組を考える。 ○尾瀬の利用者へのインタビューから、現在の尾瀬の環境が整備されている様子	<p>インタビュー ○尾瀬の環境が整っているという内容の話から、学習課題をもつことを支援。</p>  <p>「整備されてる。」ってどんなことをしているのか</p>

<p>を考える。</p> <p>○尾瀬は、昔から整備されていたのか考える。</p> <p>○年表から昔の尾瀬が荒れてきた様子を考える。</p> <p>○自然保護に関する活動を考える。</p> <p>・班をつくり、スクリーンに映した静止画や配付された静止画から、自然を守る取組を見付ける。</p>	<p>動画・静止画</p> <p>○昔の尾瀬と今の尾瀬の様子を写した静止画の比較から、尾瀬にかかわる人々が自然保護にどのように取り組んできたかを考えることを支援。</p> <p>年表</p> <p>○入山者数に着目させ、尾瀬の自然が荒れてきた様子を考えることを支援。</p> <p>動画・静止画</p> <p>○尾瀬のトイレの協力金箱を写した静止画から、尾瀬の自然を守るための取組を見付けることを支援。</p> <p>昔の写真では、木道を歩いていないよ。いいのかな？</p> <p>昔の写真と今の写真を並べて提示します。</p> <p>尾瀬に行く人が増えたけど、荒れてしまった所もあるね。</p> <p>ここに秘密がありそうだね。</p> <p>答えになるものが、少しずつアップになっていくように提示します。</p>
<p>第7時</p> <p>ねらい：尾瀬の自然保護について調べ、資料を収集する。</p> <p>○尾瀬の自然保護に関する資料を集める。</p>	<p>Webページリンク集</p> <p>○Webページリンク集を用いて、インターネット上の資料を探しやすいように検索を支援。</p>
<p>第8時</p> <p>ねらい：尾瀬の自然保護について調べたことを、資料を用いて分かりやすくまとめる。</p> <p>○集めた資料をもとに、尾瀬の自然保護についてまとめる。</p>	<p>ワークシート</p> <p>○まとめ方の参考用ワークシートを提示し、仕上がりのイメージをもつことを支援。</p>
<p>第9時</p> <p>ねらい：尾瀬の自然保護についてまとめたことを、分かりやすく発表する。</p> <p>○尾瀬の自然保護についてまとめたことを発表し合う。</p>	<p>動画・静止画</p> <p>○尾瀬の自然保護についての発表の補足をすることで理解が定着することを支援。</p>
<p>第10時</p> <p>ねらい：尾瀬を紹介する新聞を作る。</p> <p>○尾瀬について調べたり考えたりしたことを新聞にまとめる。</p>	

V 研究の結果と考察

1 尾瀬と身近な地域との相違点や共通点に気付かせるために有効であったか

「インタビュー」からは、尾瀬とはどんなところなのか尾瀬保護財団の方の話を聞かせたことで、「尾瀬って自然が豊かなんだ」など、話の様子から尾瀬のよさを感じることができたのと同時に、「どんな種類の植物があるのだろう」と疑問をもつことができた。また、山形から来た利用者の話を聞かせたことで、「尾瀬は整備されているという印象をもった」という内容から、「ずいぶん遠くからも来るんだね」「尾瀬がきれいだから来るんだね」などと遠くの他県からも尾瀬を目指して来るということについて理解できたのと同時に、「整備されているって、どうということなのだろう」と疑問をもつことができた。

○「インタビュー」から

- ・高山植物ってどんな植物なのだろう。
- ・いろいろな自然保護の活動があるんだね。
- ・ごみを持ち帰るのはぼくたちもやっているよね。
- ・自然保護活動は、群馬県と東京電力と尾瀬にいった人たちでしているんだね。
- ・たくさんの人たちで尾瀬を守っているんだね。

○「動画・静止画」から

- ・5月なのに雪があるよ。
- ・私たちの町の5月は暑いよね。
- ・尾瀬は自然が豊かなんだね。
- ・白い花（ミスバショウ）がたくさん咲いているよ。
- ・木道の周りは水ばかりだね。

○「表・グラフ」から

- ・前橋よりも気温は低いだろう。
- ・グラフの形は同じだね。
- ・前橋よりもずっと気温が低いよ。
- ・1月はマイナス8℃くらいだよ。

図10 児童の反応

これにより、尾瀬の様子に気付き、興味・関心や疑問をもつことができたため、その後の活動に意欲や見通しをもって臨むことができた。尾瀬保全推進室の方の自然保護の話聞いたときには、具体的な自然保護活動や活動をしている人たちの思いや、尾瀬をみんなで守っていく必要性に気付くことができた（前頁 図10）。

「動画・静止画」からは、尾瀬ヶ原の5月上旬の景色を見せ、自分たちの町との違いを見付けさせたことで、「5月なのにまだ雪がたくさんあるよ」と驚きの声を上げ、気候の違いに気付くことができた。また、5月下旬のミズバショウの咲いている様子を見せたことで、「白い花がたくさん咲いている」「きれいだね」というつぶやきが多く聞こえ、自然の美しさに気付くことができた（前頁 図10）。また、ミズバショウが咲いている場所を動画で提示したことで、川の流れる音を聞きながら川に沿って群生している様子を見ることができ、ミズバショウが水のあるところを好んで自生していることに気付くことができた。

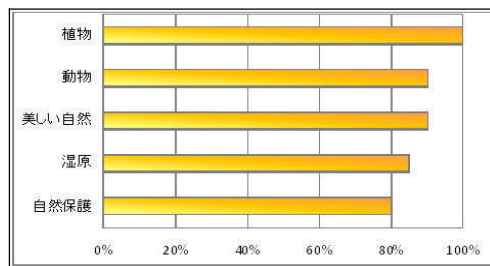


図11 「尾瀬」に対するイメージ(複数回答)

授業前に尾瀬についてほとんど知らなかった児童が、尾瀬に対して自然が豊富な様子や自然保護の対象だというイメージをもつことができた（図11）。

「表・グラフ」からは、尾瀬の標高について考えさせた。尾瀬と県内市町村役場の標高をグラフにし、自分たちの暮らす地域の標高を予想させながら低い方から提示したことで、自分たちの暮らす町と尾瀬の標高との違いをはっきりと理解することにつながることができた。また、尾瀬ヶ原と前橋の月別平均気温を比較させ場面では、前橋の気温を提示したあとに尾瀬の気温を予想させた。尾瀬の方が低いことは標高の関係からほとんどの児童が予想することができた。しかし、グラフを重ねて提示したときには、「こんなに気温が違うの」などと、予想以上の差に驚いていた。その結果、授業後のワークシートには、標高や気候についてグラフから気付いたことを記載することができた（図12）。

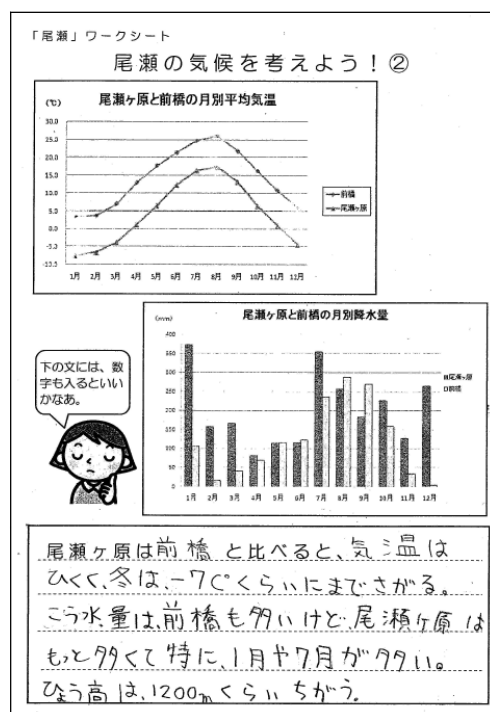


図12 「表・グラフ」に関する児童のワークシート

これらのことから、尾瀬の自然や人々の取組の特徴を表す「インタビュー」「動画・静止画」「表・グラフ」の資料は、自然や人々の取組の様子について、尾瀬と身近な地域との相違点や共通点に気付かせることに有効であったと言える。

2 尾瀬と人々とのかわり、他地域とのつながり、歴史的な移り変わりなどを考えさせるために有効であったか

「動画・静止画」からは、尾瀬のトイレの入り口を映した静止画から自然保護活動を見付けさせる活動を行ったことで、トイレの入り口に箱があることを多くの児童が見付けることができた。見付けられなかった児童も、ヒントとして、箱を丸で囲んだ静止画を見せたことにより、箱に気付き、尾瀬のために使われる募金なのだろうと考えることができた。

「地図」からは、地図上の地名をクリックすることで、その場所の動画や静止画を見ることが尾瀬の見所を表した地図を用いて、アヤマメ平と尾瀬ヶ原の位置関係を確認させた。これにより、アヤマメ平が高いところに位置することが分かり、「天空の楽園」と言われる理由を納得するこ

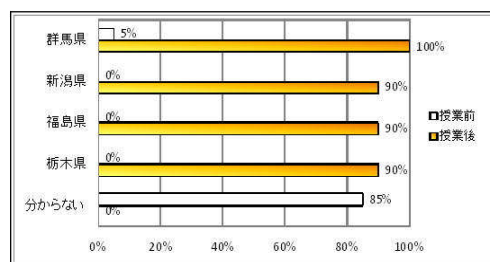


図13 「尾瀬国立公園」が所属している県名

とができた。尾瀬の位置と共に群馬県に隣接する県を一つずつ児童に県名を質問し、既習事項を想起させながら提示したことにより、尾瀬の位置について考えさせた。これにより、尾瀬が属する県名を理解し、覚えることができ（前頁 図13）、尾瀬は群馬県だけではなく、他県ともかかわりがあることが分かった。また、尾瀬が四県にまたがることから四県でどのように尾瀬を活用すべきかを考えさせたところ、「四県で仲良く自然を楽しめるとよい」などの意見が出され、尾瀬を守るには他県とも協力が必要だということを考えることができた。

「年表」からは、年表に不慣れな4年生の児童にも内容を読み取りやすくするために、入山者数に関する部分の文字色を変えて提示したり、歴史的な事象にリンクを設定して静止画等をすぐに提示できるようにしたりして、入山者数の変化と自然保護活動の関係を考えさせた。その結果、入山者の増加と自然保護活動を結び付け、自分なりに考えをもつことができた（図14）。

これらのことから、児童が考えるためのポイントやヒントを与えながら提示できるようにした「動画・静止画」「地図」「年表」などの資料は、自分なりに尾瀬と人々とのかかわり、他地域とのつながり、歴史的な移り変わりなどについて、考えさせることに有効であったと言える。

「尾瀬」ワークシート
インタビューと年表から考えよう！
組 番 名前 ()

1 山形の人のインタビューを聞いて、分かったこと、思ったことを書いてみましょう。
(1) 二人は、尾瀬の印象について何と言っているでしょうか。

あきいろをのんした

(2) 感じたこと、疑問に思ったことを書いてみよう。

かなりよいひきされてた？

2 尾瀬に関する年表から考えよう。

尾瀬には、60年前ごろから入山者がふえてきた。そのため、植物が少なくなってきた。しかし、人々の協力によって、湿原の回復に取り組んだ。

図14 「年表」に関する児童のワークシートの記述

3 尾瀬の自然や自然保護活動について調べたり考えたりしたことをまとめさせるために有効であったか

学習のまとめに「尾瀬紹介新聞」を児童一人一人が作成した（図15）。「尾瀬紹介新聞」には各種資料で学んだ効果が各所に見られた。

「インタビュー」からのまとめ
私は、尾瀬は植物も動物もたくさんいるし、空気や水もきれいで、すごく良い所だと思います。これからは尾瀬が自然の美しい所のままていてほしいです。

「表・グラフ」からのまとめ
尾瀬と言えば全国的にも自然で有名な所なのに、ミズバショウやツキノクサなどの植物がはなきて6月はミズバショウが目あてで85000人ほどの人がおとぎれます。

「地図」からのまとめ
尾瀬はたいがけん、とぎけん、ふくしまけん、いんまけんの所にあててきれいな所です。

「年表」からのまとめ
尾瀬の入山者の急増！
1932年は年間2500名とかなり少なかった。だが、1949年NHKラジオで「夏の思い出」を放送した結果、1951年には入山者が4万人とまよの倍くらよになった。尾瀬ゲームが「おこりしつけけん」があらてくる。そのため群馬県で「ま道」をせちする。1996年入山者最高の64万7千5百23人になった。

「動画・静止画」からのまとめ
次に自然などをする活動について「自然を守る活動（自然ほご）」尾瀬では、ゴミを持ち帰るためにゴミがくろをわけて、持ち帰るよようにしています。次にししほとしまを道におておきます。そして尾瀬に他の種がいらなよにするにめに、使います。他にも100円を入れるば金箱をせちして尾瀬のいろいろな所に観光客に喜んでもらうためにほ金をして作っています。

図15 児童一人一人が作った「尾瀬紹介新聞」

「インタビュー」からは、実際に尾瀬にかかわる人の話を聞かせたことで、尾瀬の自然が貴重で美しいことや、その自然を守るために取り組んでいる活動、さらには尾瀬にかかわる人々の思いを感じ取ることができた。これにより、「尾瀬紹介新聞」に尾瀬が美しいままであってほしいという願いをまとめることができた。

「動画・静止画」からは、昔と今の尾瀬の様子を並べて提示したり、自然保護活動の静止面にポイントとなる視点を提示したりしたことで、なぜ自然保護活動を行い、どのような活動を行っているのかを考えることができた。これにより「尾瀬紹介新聞」では、尾瀬の自然を守るためにトイレに設置された協力金箱や、尾瀬にない植物を入れないための種子落としマット、尾瀬のごみをなくすためのごみ持ち帰り運動などについて、調べたり考えたりしたことをまとめることができた。

「表・グラフ」からは、月別入山者数を児童に予想させながら提示したことで、どの月に入山者数が多く、なぜ多いのかを考えることができた。これにより、ミズバショウの人気と入山者数が多いことを結び付けて考えることができ、それを「尾瀬紹介新聞」にまとめることができた。

「地図」からは、尾瀬が所属する県名を順番に提示したことで、尾瀬の位置を視覚的に理解できた。これにより、「尾瀬紹介新聞」では尾瀬の位置が分かる地図を入れてまとめることができた。

「年表」からは、入山者数の変化、尾瀬の荒廃、自然保護活動の関係を文字色を変えて分かりやすく提示したことで、尾瀬の自然保護の始まりについて考えることができた。これにより、「尾瀬紹介新聞」では、年表をもとに入山者数の増加が原因で湿原が荒れたため、木道設置につながったことをまとめることができた。

これらのことから、「ズームイン・ぐんま」の各種資料は、尾瀬の自然や自然保護活動について児童が調べたり考えたりしたことをまとめさせることに有効であったと言える。

VI 研究のまとめ

1 成果

県内の特色ある地域の人々の思いや取組を伝える資料を収録した「ズームイン・ぐんま」を作成し各種資料を提示できるようにしたことによって、次のような効果があった。

- 行ったことも見たこともない場所を児童に具体的にイメージさせることができたため、身近な地域との相違点や共通点に気付かせることができた。
- 遠く離れた場所や遠い昔のできごとと人々とのかかわりなどについて児童に具体的に考えさせることができたため、自分なりに考えをもつことができた。
- 県内の特色ある地域の人々の生活を学習する上で児童にとって印象に残るものとなったため、地域教材の様子や人々とのかかわりについて、調べたり考えたりしたことをまとめやすくなった。

2 課題

今後、次のような改善を図り、さらに教材の内容を充実させたい。

- 群馬県の特色を考える支援教材としてより効果的な活用が図れるよう、デジタル支援教材「ズームイン・ぐんま」の活用場面を工夫していきたい。
- デジタル支援教材「ズームイン・ぐんま」を誰もが便利に活用できるよう、内容の構成やコンテンツの充実を図っていきたい。
- 各種資料のデータは年々古くなるため、誰でも簡単にデータの更新ができるよう工夫を図っていきたい。